

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北海道)		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税を意識した買物の傾向が強くなっている。特に4Kテレビなどの高価格商材、リフォーム関連の販売量が増えている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・消費税増税が決まりつつあるなか、国内タイヤメーカーの値上げが決まったことから、冬タイヤの駆け込み需要がみられ、8月の売上は前年比200%超えとなっている。
		百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・買上客数はいまだに前年並みまで回復していないものの、来客数が前年を上回ってきている。7月末から気温が上がったことで、シーズンアイテムが動き出している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月前半の猛暑の影響で夏物家電、特にエアコンなどがよく売れた。販売台数は前年の1.8倍となっている。
		その他専門店 【医薬品】（経営者）	販売量の動き	・10月からの消費税増税の影響で8月は好調であった。9月も過去の消費税増税直前の月と同様の数字を見込めるが、増税後は悲惨な状況になる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・年度内の旅行計画の話が入ってきており、販売量が伸びている。下期のビジネス需要の動きも少しずつ出始めている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子から、段々と景気が悪くなってきている雰囲気が強く感じられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月上旬は観光客の入込があり、宿泊、交通、土産物で動きがみられたものの、観光客以外の地域住民はまばらであり、例年以下の来街者数であった。中旬においては、歩行している来街者が例年以上にみられたが、下旬になると来街者数は再び減少した。全体として、前年以下の来街者数となり、多くの業種でやや悪い状態であった。
		一般小売店【土産】（経営者）	来客数の動き	・8月は国内客、海外客共に前年を上回っている。夏休み時期ということもあり、家族連れが多く、購買件数の多い月となった。客単価は前年並みであったため、旅行客数が増加したことが売上のプラス要因となっている。
		一般小売店【酒】（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量が回復基調にあるが、まだ景気が上向いているとまではいえない。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・前月、前々月と比べると、10月からの消費税増税を前にした駆け込み需要の動きが明らかにみられる。ただし、こうした動きは一時的なものであり、この後の反動がどうなるか分からない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・お盆休みが長期間となったことで、お盆商戦における帰省準備用品や高単価商材の買い回りが前年と比較して少なかった。不必要な商材は買わないという節約志向の客が目立っている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温が高くなると販売量が増える傾向があるが、8月は気温の高い日が続いた際に、予想ほど販売量が伸びなかった。客が消費を抑えている、又はより価格の安い店舗に流れているとみられ、消費者心理の厳しい状況が継続していることがうかがえる。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・消費税増税の影響により、オーダー関連の販売量が大きく伸びている。問合せも例年と比べて多い。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客が無駄な買物をしなくなっている。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・当社の決算期が9月ということもあり、例年8月は谷間の月となる傾向がある。客の動きは多少みられたが、全体的に盛り上がりには欠けた月であり、景気はこれまでと変わらない。	
	高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・消費税増税前であるが、客の動向は余り変わらない。ただし、10月の消費税増税後については、不透明な部分がある。	

高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ 8月はこの1年間で最も多忙な月となり、売上は前年から34%の増加となった。中旬までは家族連れの団体客が主であり、週末になると、ランチ、ディナー共に満席の状態が続いた。こうした中、回転率を上げるため、スタッフが後片付け、セッティングを素早くこなし、テーブルを長い時間空けないようにしていた。下旬になると、来客数はさすがに減少してきたが、年配客の来店が目立つようになった。ゆったりとした雰囲気の中で、スタッフは客と会話を交わしながらサービスに努めていた。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・ 8月は前年並みの売上となった。8月前半、特に気温の高い日は、観光客、地元客共に来店が多く、昼夜で売上が上がった。一方、後半は、気温の高い夏休み中にお金を使ったこと、9月における2度の3連休や10月からの消費税増税などを前にして、客が行動を控えていたことなどから、全体的に売上が減った。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・ 国内客、外国人観光客共に団体旅行が低調である。ビジネス需要を含めた個人予約でのカバーを狙ったが、及ばなかった。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・ 当地への観光客及びビジネス客の入込が好調を維持している。夜の街もにぎわいがあり、活気がある。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・ 前年と比べて、客の来店の動きが鈍い。客単価も上がってこない。
タクシー運転手	来客数の動き	・ 8月はタクシー1台当たりの売上が前年から3%ほどのプラスとなったが、乗務員不足と減車の影響で稼働台数が減少したことで、会社全体の売上は前年比マイナス10%と大きな減収となった。
通信会社(企画担当)	お客様の様子	・ 8月の来客動向は7月と変化がなかった。お盆期間中も想定内の来客数であった。
美容室(経営者)	お客様の様子	・ お盆を過ぎても客の動きが衰えず、安定した売上を維持している。
美容室(経営者)	来客数の動き	・ この2~3か月、来客数がほとんど変わっていない。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・ 消費税増税を直前に控えて、様子見の客が多く、商談に要する時間が以前よりも長くなってきている。
商店街(代表者)	お客様の様子	・ 来客数、販売量、販売単価のいずれも前年と比べて数字が落ちている。消費税増税前の駆け込み需要はほとんどみられない。
商店街(代表者)	販売量の動き	・ 7月までは順調に推移していたものの、8月に入ってから減少傾向が続いている。暑さの影響もあるが、お盆休みが例年のような短期集中とならなかったことで出費が増えたのか、一般商品と飲食店における消費の動きが悪くなっている。
商店街(代表者)	販売量の動き	・ 雨不足の影響で果実の収穫が若干遅れている。
一般小売店[土産] (経営者)	来客数の動き	・ 今年に入ってから、景気が段々と悪くなってきている。8月の売上は、前年比92%、一昨年比98%であり、外国人観光客が売上に占める割合も13%まで落ち込んでいる。
百貨店(売場主任)	販売量の動き	・ 8月は消費税増税前の駆け込み需要による売上増を見込んでいたが、一部を除いて、目立った動きはみられなかった。前回の増税時から余り期間が空いていないこと、税率の引上げ幅が小さいことから、客の購買意欲が高まっていない。
百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・ 来客数は微減にとどまっているが、外国人観光客の減少幅が大きくなっており、外国人観光客による売上がマイナス基調になってきている。
スーパー(店長)	来客数の動き	・ 客の購買行動の落ち込みや客単価の低下などがみられ、売上が下がっている。競合他社も同じような状況にあり、地域全体が減少トレンドの動きとなっている。
スーパー(企画担当)	販売量の動き	・ お盆期間などの晴れの日には前年並みの販売量となるが、それ以外の日はばったりと止まる。その止まり方も以前と比べて極端であり、客が相当節約している様子がうかがえる。

	スーパー（役員）	来客数の動き	・ここ数か月、売上に大きな落ち込みはみられないが、来客数、客単価が落ち込む流れとなっている。また、8月はお盆商戦が売上面での大きな山となるが、帰省などの行動が年々減少していることで山が小さくなっており、厳しい状況になってきている。	
	スーパー（役員）	お客様の様子	・お盆商戦は帰省客が多いこともあり、活発に推移したものの、お盆明けの動きがとて悪かった。想像以上に客はお金に余裕がないようだ。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が減っている。天候要因による部分が大きいですが、それ以外の要因による影響もうかがえる。	
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・地域の基幹産業である漁業関係から良い情報が伝わってこない。港周辺の加工場なども含めて、関連施設の稼働が低下していることから、景気はやや悪い。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の受注量が依然として上向いてこない。他社の状況も注意深くみているが、大きく変わらないようである。基幹産業の低迷が一因とみられる。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による伸びを期待していたが、残念ながらそうはなっていない。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月と比べて、販売台数が大きく減少している。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が減少傾向にある。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・外国人観光客が減少傾向にある。9月に予定されていた韓国からの国際チャーター便の運航も中止が決まった。ただ、9月の外国人観光客の入込については、前年の北海道胆振東部地震の反動があるため、前年比ではプラスになることが見込まれる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・6～7月は例年並みであったが、8月に入ってから予約も含めてオーダー数が減少している。外国人観光客関連ではキャンセルも目立つようになってきている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・外国人観光客による予約が入らなくなってきている。日韓関係による余波とみられる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・8月も観光客と地元客の動きが変わらず、やや落ち込んでいる。この先の景気が上向きに転じるような気配もない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・10月に予定されている消費税増税を控えて、備蓄品などある程度の駆け込み需要が発生しており、それに伴って客の利用頻度が増してきている。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・7～8月と天候不順が続いていることで、来客数が落ち込んでいる。8月の売上は26日時点で前年比94.6%となっており、6月から3か月連続で前年を下回っている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・大型台風の影響もあり、旅客、車両共に前年と比べて輸送量が減少している。	
	×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内客、外国人観光客、個人客、団体客のいずれも総崩れの状況にある。参議院選挙の影響、消費税増税前の旅行控え、韓国との関係悪化など、複数の要因が影響している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・8月の売上は前年を5%下回った。前年はイベント効果で売上が増加するという特殊要因があったが、前年のイベント分を考慮しても、落ち込み幅が大きい。
	×	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・住宅については消費税増税前の駆け込み需要がほとんどみられない。自動車についても駆け込み需要が余りみられないようであり、全体的に増税前の駆け込み需要が少ない。
企業動向関連 (北海道)		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度計画を上回る受注量が確保できている。いずれの現場も工事の最盛期に入り、出来高が順調に積み上がっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要がみられるようになり、受注増につながっている。ただし、前回の増税時ほどの勢いはない。

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・消費税増税を前にして、駆け込み需要が多少出てきている。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・先行売上の見通しが、毎月、増加している状況にある。市場の動きとしてはそれほど大きくないが、需要は多く生じている。先々の仕事状況を把握してユーザーの意に沿った提案を行うことが重要になってきている。	
	建設業（従業員）	それ以外	・民間の継続工事に引き続き、公共工事の発注も出そろってきている。保有労務量からみると、建築工事では、く体工事や仕上・設備工事が飽和状態となってきた。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・韓国からの観光客の減少が、これまで好調に推移してきた観光関連業種にとっての重荷になっているが、個人消費が底堅く推移していることや公共投資が増加していることから、道内景気は3か月前と横ばいでの推移となっている。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引の状況は、3か月前と比べて変わらない。消費税増税を前にして、若干の伸びが出てくることを期待していたが、余り変化がない。	
	司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しが見当たらない。米中の貿易摩擦、日韓関係の悪化など、経済にダメージを与える出来事が多発していることに加えて、消費意欲も低下しており、こうした中で不動産取引だけが順調に伸びることはない。しばらくは様子見の状況が続く。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・働き方改革の影響などにより、パソコンの需要や関連の設備投資などの動きが進んでいるが、当社の業績は横ばいでの推移となっている。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年並みで推移する状態が続いている。	
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて、売上が1割以上落ち込んでいる。	
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・関東地区の梅雨明けが遅れたことから、飲料品の動きがようやく8月前半から活発になっているが、これまでの落ち込み分のリカバリーは難しい状況にある。飲料用容器はこれまで先送りしていたこともあり、動きが鈍い。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・実際の売上が大きく減少しているわけではないが、先々の景況感の悪化予測や韓国からの観光客減少による機会損失などを要因として、企業活動や消費活動が緊縮傾向に入ったとみられる。ただし、これらの影響は報道などに影響され、過大に見積もられており、実際の影響は一部に限られる。	
	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・日韓関係悪化の影響で、ホテル、飲食、百貨店などの観光関連の売上が芳しくない。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	取引先の様子	・取引先の受注状況がやや悪化している。案件が中止されることはないが、規模の縮小は普通に聞くようになった。	
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月の販売量は前年比マイナス10%であったが、3か月前の5月の販売量はマイナス6%であったことから、景気は悪くなっている。
	×	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・お盆休みが最大9連休となったことが影響して受注量が減少している。
雇用 関連  (北海道)		-	-	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の業容拡大意欲が継続しており、求人数は増加傾向を維持している。適正スキルを持つ人材の応募が少ないようであるが、企業が採用条件の緩和を考えている様子はみられず、強気の対応が続いている。ただし、希望する人材の採用が進まないことで、企業の採用疲れが見え隠れしている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・基幹産業の農業が好調であることに加えて、観光客の入込も順調なことから、景気はやや良い。	

	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・基幹産業の農業において、本格的な収穫繁忙期を迎えていることで、これまでの人手不足に拍車がかかっている。どの企業も非正規の人材獲得に苦戦している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・外食産業や小売業では積極的な採用活動がみられるが、思うように採用できない状態が続いている。観光関連業界も含めて、不足人材を外国人労働者でカバーする動きが徐々に広まっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・これまで前年比で右肩下がり気味に推移していた求人数がほぼ前年並みで推移しており、下げ止まりの動きがみられる。ただし、今後の消費税増税がどのように影響するかが読めない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・お盆期間や夏休み期間を乗り切るための募集広告に引き続き、クリスマス、年末年始商戦に向けた人員募集が早くも始まっている。今年の夏は暑かったため、飲料、ピヤガーデン、焼き肉業界は忙しかったようである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率は1.13倍と前年を0.07ポイント上回り、平成22年3月から9年5か月連続で前年を上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数が5か月ぶりに増加したことで、有効求職者数が2か月ぶりに増加した。一方、新規求人数は更新時期のずれなどが影響したことで7か月ぶりに減少し、有効求人数も6か月ぶりに減少した。これらのことから、有効求人倍率は0.99倍と4か月ぶりに前年を下回った。また、新規求職者数が増加したことで紹介件数が増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率は1.11倍であり、前年を0.03ポイント下回ったが、引き続き高い水準で推移している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・カーディーラー、卸売業、家電量販店、ホテル業など、ほとんどの業界で企業側の新卒採用活動が継続しており、10月頃までは前年と同様の動きが続く。
	-	-	-
x	-	-	-